

パブリック・リレーションズ

脚本 中村ノブアキ

登場人物

クインテットPR

富野 とみの 陽一 よういち CEO

庄内 しょうない 翠 みどり 社員

江渡 えと 伸悦 のぶえつ 社員

小峯 こみね 久美子 くみこ 社員

古元 ふるもと 誠道 せいどう 社員

東京テレビ

衿川 えりかわ 蔵人 くらうど プロデューサー

佐久 さく 風介 ふうすけ アシスタントプロデューサー

榛葉 しんば 明華 めいか アシスタントプロデューサー

舞台には会議室があるのみ。
会議室は2つの会社のそれを兼ねる。
「クインテットPR」と「東京テレビ」である。
会議室には大きなテーブルと椅子が6脚。
奥とサイドにドアがそれぞれある。
奥のドアは廊下に続いている。

2つの舞台が交互に展開する。

一【クインテットPR】

江渡、久美子、古元、翠が登場、席に着く。
最後に富野がやってくる。
全員、富野に注目。

富野

いよいよ今日からこの会社の歴史が始まる。クインテットPRは俺の会社じゃない。俺たちの会社だ。名目上俺が代表ってなってるけど、それはあくまで名目上。実際はみんなひとりひとりがこの会社の未来を作る立場にある。そのくらいの気概と覚悟を持って、全力で仕事をしたい。

頷く者がいたり、返事をする者がいたり。

富野

だから思ったことは遠慮せず、何でも言い合える会社にしよう。みんながいいと思ったアイディアはどんどん採用する会社にしよう。そういうことを積極的に言い合える会社にしよう。それがCEOとしての俺の唯一の願い。・・・改めて言うことでもないけど、これからはますますPRが注目される時代になる。テレビCMでモノが売れる時代は終わった・・・まあこんなこと、代理店にいた古元さんや翠には釈迦に説法だけど。

2人、微笑む。

富野

つまり大袈裟に言えば、これからは戦略的PRに目を向ける企業だけが生き残っていく。そういう時代になるんだと思う。俺たちを必要とするクライアントは間違いなく増える。増えていく。断言する。俺たちの選択は間違っていない。クインテットPRの創業メンバーであること

を誇りに思う日がきつとくる。だからどうか・・・この会社を信じて欲しい。

江渡

信じたからここにいますよ。

富野

そうだな。

江渡

そうそう。

富野

正直言うと、みんなを誘ったこと、ホントに良かったのか不安になることがある。この会社がうまくいくって保障はどこにもない。あるのはただの自信だけ。根拠のない自信じゃない。さっきも言ったけど根拠はある。PRの時代が来るといって根拠。根拠はあるが・・・保障はない。そのまま（古元や翠は）代理店にいたり、（久美子は）メーカーだったり、（江渡は）制作会社にいた方が良かったかもしれない。そう思うことがきつとある。それは保障する。苦労するかもしれない。いや苦労する。絶対。間違いない。それも保障する・・・それでも今ここにいる5人が力を合わせれば、乗り越えられないハードルはない。俺はそう信じてる。それだけの熱意と能力ある人間だけを集めた・・・つもりだ。

一同、照れ笑い。

富野

一緒に頑張ろう。クインテットPRをでっかい会社にする。社員は、そうだな、百人以上、売上も百億以上の会社だ。

江渡

それはでかい。

富野

夢はでかい方がいい。やりがいがある。

古元

その通り。

江渡

はい。

富野

頑張ろう。

一同

はい。

富野

今日から俺たちは、同じ夢に向かって走るチームだ。

一同

はい。

富野

クインテットPRをでっかい会社にしよう。

翠

わかりました。

頷く一同。

富野

よろしくお願いします。

富野、深々と頭を下げる。

一同拍手。

富野、翠、古元、去る。

江渡、去り際、久美子に声を掛ける。

江渡 小峯さん。

久美子 ？

江渡 ・ ・ ・

久美子 なに？ 江渡さん。

江渡 呼び捨てでいいですよ。もう同じ会社なんですから。

久美子 なんかわな感じ。

江渡 よろしくお願いします。先輩。

久美子 先輩かー。

江渡 先輩です。

久美子 先輩です。

江渡 こっちこそよろしくね。

久美子 はい。ところでもう吹っ切ったんですか？

江渡 なんのこと？

久美子 富野さんのこと。

江渡 ・ ・ ・

久美子 2人が付き合ってたの知ってました。

江渡 P R会社の営業とクライアントの広報ってドラマチック

久美子 じゃないすか。うちの会社の人、みんな知ってました

久美子 よ。

江渡 そう。

久美子 でも別れたんですよね。

江渡 まあね。

久美子 やっぱり。

江渡 だから？

久美子 いや。これから同じ会社で働くわけじゃないすか。

江渡 うん。これから知っておいた方が、色々やりやすくなって。

久美子 だから知っておいた方が、色々やりやすくなって。

江渡 まあそりゃ色々？

久美子 別れたの、一年前だからね。今回、転職決めたのとまっ

江渡 たく無関係だから。

久美子 それは良かった。

江渡 え？

久美子 公私混同されてもいやですから。

久美子 もちろんよ。

江渡 会社のために。頑張りましょ。
久美子 お互いね。

江渡、去ろうとする。

久美子 江渡さん。

江渡 ?

久美子 あ、江渡、くん。

江渡 なんすか？

久美子 みんなには言わないで。

江渡 ・・・言いませんよ。

久美子 もう終わったことだからどうでもいいんだけど、変に気

江渡 を遣わせんのもやだから。

江渡 分かってます。

久美子 ありがとう。

江渡 それだけですか？

久美子 ええまあうん。

富野、出てきて、

富野 (2人に)一瞬いい？(久美子に)この後、空いてるよ

ね？

久美子 はい。

富野 営業、一緒に行かない？

久美子 え？ああ、うん。

富野 家電業界詳しいじゃん。

久美子 そりゃまあ10年も働いてたから。

富野 マツカワの広報と会えることになってさ。

江渡 へえ。

富野 小峯の知識がはまるんじゃないかと思って。

久美子 分かりました。

富野 OK。じゃあ5分後に1階で。

久美子 はい。

江渡 富野さん。

富野 ?

江渡 頑張ってください。

富野 おお。

富野、去る。

久美子、江渡を見る。

江渡 早く行った方がよくないですか。

久美子、去る。

江渡、ため息をつき、去る。

二〔東京テレビ〕

衿川、佐久、明華、登場。衿川、携帯を操作し始める。

側に立っている佐久と明華。緊張した面持ち。

衿川

（電話）東テレの衿川だけど、高木さんいる？・・東
京テレビの衿川・・（舌打ち）・・ああタカさん？
俺。そう。あのさ、わりんだけどサーチの収録、2時間
ばかり後ろに倒してくんないかな。え？ああいやそれは
わかってんだけどさ。実はうちのアシがさ、時間間違え
て連絡入れちゃったみたいなんだよね・・うんそう事
務所に。そう。秋吉さんの入り遅れんだって・・ごめ
んね・・しょうがないっしょ。肝心のMCがいないん
だから・・申し訳ない。ヒラさんにもよろしく言っと
いて。はい・・ああそれから。さっき電話取ったのい
るでしょ。タカさんに繋いでくれた。男。うんそ
う・・その、コバヤシくん？俺のことわかんなかった
みたいだからさ、ちよっと教育して。うん・・
（笑）ああじゃあ今度その写メ送ってくれる？・・は
い。じゃあそれ楽しみにしてます。はいどうも。

衿川、電話を切る。

明華

（頭を下げる）申し訳ありませんでした。

しばし沈黙。

衿川

佐久。

佐久

はい。

衿川

お前、どういう教育してんの？

明華

すいません・・15時を5時と間違えたみたいです。

衿川

はい。

（明華に）バカ？

明華 すいませんでした。
明華 いつからうちの局は小学生採るようになったんだよ。
明華 もう二度と同じ間違いはしません。
明華 当たり前だよ。
明華 はい。

しばし沈黙。

明華 (腕時計を見て) 企画持ってきた？
明華 え？あはい。
明華 見して。

明華、企画書を差し出す。
明華、それを無造作に見る。

明華 佐久、これお前も見てんの？
明華 ・・・あいや、見てないです。

明華 !
明華 ちゃんと見るよ。お前チーフだろよー。
明華 すいません。ちよつと時間なくて。
明華 ちゃんと指導してくれよー。
明華 はい。すいません。
明華 (明華に) これで数字取れるんですか？

明華 ・・・
明華 (企画書を放り投げ) やり直し。
明華 ・・・あのーどこを直せば？
明華 どこ？全部だよ全部。やり直して言ってんだからさ、やり直せよ。

明華 はい。すいません。分かりました。
明華 まるごとサーチはさ、F3ターゲットなんだからさ、スマホとか興味ないんだよ。

明華 そうですかね？
明華 そうですかね？じゃねえよ。そんなら感覚でわかんดารうよ。
明華 すいません。

明華 B C G 知らねーの？
明華 B C G ? ・ ・ ・ (腕) これじゃないですよね？

明華 主婦が好きなテーマ。Beauty (ビューティ)、Cooking (クッキング)、Gossip (ゴシップ)。頭文字を取って B C G 。

明華 ああなるほど。
明華 おばちゃんが食いつく企画、明日までに百案持ってこい。
明華 はい。わかりました。

明華、出て行こうとする。

明華 収録には遅れんなよ。
明華 はい。失礼します。

明華、出て行く。

佐久 じゃあ呼んできていいですか？
明華 プロダクション、待たせてるじゃないすか。
明華 ああそっか。えっとなんて会社だっけ？
明華 クインテットPRですね。
明華 クインテット？聞いたことねえなあ。
明華 半年くらい前にできた会社だそうす。
明華 ふーん。んじゃパツパツていこうか。
明華 はい。

佐久、出て行く。

明華 佐川、携帯をいじる。ちよつとにやける。
明華 佐久の案内で富野、久美子、翠が入ってくる。
明華 各自、失礼します。とか何とか。

明華 いやーお待たせして申し訳ないですね。ちよつとトラブル
明華 ったもんですから。
明華 いやいやこちらこそ、お忙しいところホントすいませ
明華 ん。もう大丈夫なんですか？
明華 ええまあ何とか。でもちよつとしかないですけど、いい
明華 ですか？
明華 ええもちろんですよ。
明華 すいませんね。
明華 えっと、まずご挨拶・・・。
明華 ああはいはい。

それぞれ名刺交換を始める。
明華 転換。

富野、会社説明をしている雰囲気の中、衿川と佐久、去る。

三【クインテットPR】

富野、翠、久美子、深刻に会議している。

富野 え？・・・なんだって？

翠 明日のサーチの内容が変更になったそうです。

富野 ちよつと待て。どういうことだよ？

翠 今は尖閣問題で、オンエアできないって言われました。

富野 は？

翠 Pの判断だそうです。

富野 衿川さんか。

重い沈黙。

久美子 田村屋さん、明日、まるごとサーチに特集されるからつ

富野 て、流通にかなり押し込みたいです。ハーフ肉ま

久美子 分かってるよそんなこと。

富野 すいません。

翠 ああ参った・・・そもそもさ、内容変更になりましたっ

翠 て言われて、ああそうですかって引き下がったのか？

富野 そんな簡単に引き下がるわけないでしょ。毎日通ってや

富野 っと採用になっただよ。考え直してくれて何度も頼

富野 みました。

富野 だってたらさ、代わりの番組引張ってくるとかさ、転ん

富野 でもタダじゃ起きないのが、プロのPRマンなんじゃね

富野 えの？

富野 サーチが無理だったら、ハッケンとかさ、東テレの生活

富野 情報番組、他にあんただろうよ。

富野 ・・・今からやろうと思ってました。

富野 遅い。そういうリカバリ―ショットないとクライアント

富野 に報告できないだろ。

富野 すいません。

富野 社長連れて中華街までロケ行ったんだぞ。今更露出でき

しばし沈黙。
富野、深いため息。

富野 しっかりしてくれよ。頼りにしてんだからさ。

翠 すいません。

久美子 どうしましょう？

富野 ・・謝るしかないだろ。流通まで巻き込んでん

だ。早いほうがいい。

久美子 はい。

富野 この後すぐ電話入れろ。

久美子 はい。

富野 対応策は追ってご提案しますって言え。

久美子 分かりました。

富野 （翠に）頼むよ。

翠 ・・はい。

富野 （独り言）なんでこうなるんだ？

久美子 富野さん。

富野 東テレ行ってきます。

久美子 え？

富野 衿川さんにもう一度お願いしてきます。

富野 え？それはだつて、

久美子 翠ちゃんだけよといいと思うんです。

富野 ・・

翠 どういうこと？

久美子 こちらの事情もちゃんと分かってもらった方がいいんじ

やないかと思うんです。

翠 それは私が何度も説明したよ。

久美子 そうかもしれないけど、でも伝わってないかもしれない

じゃない。

翠 え？私が悪いってこと？

久美子 そうじゃないけど、でも実際こうなっちゃったわけだ

し。

翠 だからこうなったのは私の力ではどうしようもない事態

になつたから。

久美子 翠ちゃんが悪いって言うてるわけじゃないの。私も力に

なりたいの。この会社のために。

翠 ・・

久美子 （富野に）いいですよね？

富野 やり方によってはおかえって逆効果になることもある。
久美子 分かってます。
富野 (翠に) 大丈夫かな？
翠 ・ ・ ・ 私も行きます。
久美子 え？
翠 この案件、私メインだし。衿川さんの性格、よく分かってるし。
富野 そうだな。翠と一緒にいたら。
久美子 じゃあ行ってきますね。
富野 分かっているとと思うけど、衿川さんは俺たちの大事なパイプだぞ。絶対に粗相のないようにな。
久美子 分かっています。
富野 うん。

久美子、会議室を出る。
続いて出ようとする翠に対し、先回りし、ドアを閉める富野。

富野 今日、そっち行くよ。
翠 分かった。
富野 赤と白。
翠 赤。
富野 了解。1本買ってく。
翠 ありがとう。
富野 じゃあまた後で。
翠 うん。

富野、ポンとボディタッチ。
翠、笑顔になり会議室を出る。

廊下で立ち止まっている久美子。
悔しそうな様子。そこに江渡が現れる。

江渡 どうしたんですか？

久美子、無視して去る。
それを心配そうに見つめる江渡。
翠と江渡が廊下で出会う。

江渡 社長 (中に) いる？

翠 いるよ。
江渡 なんかありました？

翠 どうして？

江渡 いや何となく。

翠 まあちよっと。今から（ゴルフスイング）リカバリーシ

江渡 ヨット。

江渡 ナイスオン。

翠 ありがとう。

と言って翠、去る。

江渡、会議室を覗き込み、

江渡 ちよっといいですか？

富野 いいよ。

富野、江渡、椅子に座る。

江渡、なぜか富野の近くに。

富野 （笑）近いな。

江渡 あ、すいません。

と言って離れようとする。

富野 いいよ別に。

江渡 あ、はい。

富野 なに？

江渡 はい。えっと、さくらカフェなんです。

富野 お、返事来た？

江渡 はい。・・・すいません。

富野 負けた？

江渡 はい。さっき吉田部長から電話もらいました。

富野 それで？

江渡 プレゼンに対する御礼と、他社に決めたということでした。

富野 どこだよ？他社って。

江渡 ソーシャルワークスだそうです。

重い沈黙。

富野 絶対勝てるって、古元さん言ってたよな？

富野 ・ ・ ・ 疑うわけじゃないけど、ホントに部長と握ったんですよね？
古元 嘘だつて言うんですか？
富野 確認です。
古元 クインテットPRが勝つよう根回しするって言質取りましたよ。
富野 ですよ。
古元 証拠出せって言われても、書面にはしてないけど。
富野 それでも負けた。
古元 だから裏切られたんですよ。
富野 ・ ・ ・ ということは簡単に裏切られるような関係でしか
古元 なかったってことですか？
江渡 ・ ・ ・
古元 ソーシャルワークスがうちより圧倒的にいい案だった。
江渡 だから吉田部長は社内を説得できなかった、とか？
古元 (笑) もしくは接待で、うちよりもっといい店行ったとか？
古元 それで逆に ・ ・ ・ 冗談ですよ。

意心地の悪い空気。

富野 なんで古元さんうちに来たんですか？
古元 え？
富野 そのまま代理店にいて、安定した給料もらい続けても良かったわけじゃないですか？
古元 ちよつと待てよ。誘ったのそっちだろ。
富野 そうじゃなくて。じゃあなんでうちに来ようと思ったんですか？
古元 どういうこと？
富野 なんて前の会社辞めたんですか？
古元 ・ ・ ・ 江渡。
江渡 はい？
古元 お前はどうかんだよ？
江渡 はい？
古元 なんてこの会社来たんだよ？
江渡 え？ あ、えつと ・ ・ ・
古元 PRにやりがい感じましたか？
江渡 もちろんそれもあります。
古元 も？ ・ ・ ・ それも？
江渡 一番は、富野さんに付いていくようになったってことですかね ・ ・ ・ なんかすごいことになるような気がして。

富野 皮肉か？
江渡 え？
富野 確かにすごいことになってる。毎月赤字だ。
江渡 富野さんがそんなこと言っちゃダメですよ。
富野 そんなこと？
江渡 ネガなことです。
富野 じゃあ何て言えばいいんだよ？いつか努力が報われると
江渡 きが来る。今は耐えて頑張ろう、か。
富野 交際費無駄遣いして、競合に勝てない社員に？
江渡 言い過ぎですよ。

重い沈黙。

富野 (古元に) なんで怒ってるか分かりますか？
古元 競合に負けたからだろ。
富野 もちろんそうですけど、そうじゃないです。
古元 交際費の使い過ぎか？
富野 ・
古元 はいはい分かりました。これから気を付けます。
富野 もっと根本的なことです。
古元 根本的？
富野 負けたのに、なんで悔しそうじゃないんですか？
古元 何言ってるんだよ。悔しいよ俺だって。
富野 開き直ってるじゃないですか。
古元 ・
富野 クライアントが裏切ったから、そう言いましたよね？そ
りやそうでしようけど、なんでそれに対して平気でいれ
るんですか？
古元 平気じゃない。
富野 そう見えないんですよ。俺だけが熱くなって、肝心の古
元さんは諦めてる。他人事みたいだ。
古元 ・
富野 ・他人事だとは思ってない。
古元 だから聞いたんです。うちに何を求めて来たの
かつて ・
富野 ・会社を大きくしたい。夢を実現したい。そうい
うことじゃなかったの
古元 かもさ、夢じゃ食べれないからね。
富野 ・
古元 クビですか？

江渡　　そこまでしなくても・・・別に悪いことしたわけじゃないし。
富野　　次こそは勝ってください。
古元　　頑張りますよ。
富野　　（去りながら）（江渡に）明日の朝会、絶対遅刻すんなってみんなに連絡しといて。
江渡　　はい。

富野、会議室を出る。

江渡　　ホントになんで負けたんですかね？
古元　　なんでだろうな？
江渡　　僕らの案、結構良かったと思いますよ。
古元　　相手の方が良かったから負けたんだろ。
江渡　　・・・古元さん。
古元　　ん？
江渡　　僕が言うのもなんですけど。
古元　　なに？
江渡　　そんなんじゃないつまでも勝てませんよ。
古元　　・・・
江渡　　すいません。生意気言って。
古元　　いやいいよ。
江渡　　俺、この会社好きなんです。
古元　　ああそう。
江渡　　絶対に成功させたいんです。
古元　　俺だってそうだよ。
江渡　　だったらもっと、なんていうか、
古元　　分かったよ。
江渡　　すいません。
古元　　・・・飲み行くか？
江渡　　え？
古元　　気分転換。奢るよ。
江渡　　すいません。
古元　　行かねえの？
江渡　　転換する気分じゃないす。
古元　　・・・
江渡　　すいません。

江渡、軽く頭を下げ去る。
古元、携帯を取りだし掛ける。

掛けながら、会議室のドアを閉める。

古元

（電話）いつもお世話になってます。クインテットPRの古元と言います。広報の吉田部長いますか？はい。古元です。・・部長、私です。はい。この度はホントにありがとうございます。ありがとうございました。はい。聞きました。・・バッチリです。・・はい。・・で、この後、行きませんか？もちろん3人で。・・え？・・そんなもん決まってるでしょ。今度はソーシャルワークスさんに出してもらいますよ。

転換。

翠、久美子が神妙な面持ちで入ってくる。

古元、電話で話ながら去る。

入れ替わりに明華が入ってくる。

四【東京テレビ】

明華、椅子に座りながら、

明華

衿川はすぐ来るから。

翠

ごめんね。

明華

・・明日のサーチの件でしょ？

翠

うんそう。もう決定だってことは分かってるんだけど。

明華

そうね。申し訳ないけど。

翠

だよね。

明華

バラエティだけど、一応情報番組だからね。

久美子

私からもう一度お願いしたくて、庄内に頼んだんです。

明華

そうですね。でも無駄だと思えますよ。プロデューサー

久美子

判断ですから。

翠

・・それで明華さんをお願いなんだけど。

明華

なに？

翠

ハッケンのP、紹介してくれないかな？

明華

ハッケン？

翠

うん。他の情報番組あたりたくて。

明華

そりゃそうだよね。

翠

うちルートないのよ。

明華

分かった。

明華

分かった。

翠 ありがとう。助かる。
 明華 急ぎ、だよな？
 翠 うん。お願い。
 明華 じゃあこの後でいい？
 翠 もちろん。ありがとう明華さん。
 明華 いいえ。この前の御礼。
 翠 良かった。おしゃれなとこ連れてって。
 明華 あそこのイベリコ、ホント美味しかったよね。
 翠 うんホント美味しかった。(久美子に)この前、2人で
 行ったんですよ。十番の、えっと、なんでしたっけ？
 明華 プリムラ。
 翠 そう。ラ・プリムラってイタリアン。
 久美子 あ、そう。
 翠 行ったことありますか？
 久美子 あ、いや私は。
 翠 あそこホント美味しいから行ってみて。オススメだから。
 久美子 (生返事)
 明華 ねえ。今日、行かない？
 翠 今日？
 明華 うん。あ、良かったら小峯さんも。
 久美子 ・ ・ ・
 明華 3人で。ダメ？
 久美子 私は今日はちよっと。
 明華 え？それは残念。
 翠 明華さん、ごめん。
 明華 え？
 翠 私もちよっと今日はNG。
 明華 デート？
 翠 ああ、いやー。
 明華 デートだ。
 翠 ああまあいやー。
 明華 例の？
 翠 それは、今は止めて。
 明華 ごめん。
 翠 ホント信じらんない。
 明華 ごめんねー。
 久美子 翠ちゃん、彼氏いるんだ？
 翠 もういいじゃないですか。その話は。
 久美子 私の知ってる人？

明華 逆になんにも教えてくれなかったから衿川さん。全部佐
久さんに振って。

翠・明華 衿川さんて、なに考えてるか分かんないときない？
（小声）いいの？そんなこと言って。

翠・明華 もちろんここだけの話。
大塚プロデューサーってその逆で、

衿川が会議室に入ってくる。続いて佐久。
いきなりピツとする三人。

明華 お疲れ様です。

衿川 お前、なにやってんのここで？

明華 衿川さん待ってました。

衿川 俺さ、会議室に案内しろとは言ったけど、待っとけとは
言っってないよね？

明華 え？

衿川 タカさんたち、ずっと待ってるよお前のこと。

明華 え？

衿川 明日の段取り確認しなきゃ帰れねえだろうがよー。可哀
想に疲れてんのにさ。

明華 あ、すいません。

明華 謝んのは俺にじゃねえだろ。

明華 あ、すいませ・・・失礼します。

明華、急いで去る。

衿川、持ってた台本で佐久の頭を小突く。

衿川 教育係。

佐久 すいません。

衿川 頼むよ。

佐久 はい。

翠・久美子に） すいませんね。変なとこ見して。
あいえ。

衿川 今の若い奴、こっちが言わないと動かないしよ。俺なん
かんとときは自分から動いたのにさ。先輩の動き見て。

翠 そうですよね。分かります。

衿川 おたくらもそう？

翠 私たちはできたばかりの会社なんで、先輩後輩とかな
久美子 います。ね？
翠 はい。5人しかいないんで。家族みたいなもんです。
久美子 家族っていうか兄妹ですね。あまあそれも家族か。
久美子 家族って5人しかいないんだ。もつと大きな会社だって
久美子 思ってたよ。
久美子 これからの会社ですから。
久美子 仲良いんだ？みんな。
久美子 もちろんです。
翠 まあ色々とありますけどね。小さいなりに。
久美子 そうかな？
翠 あ、まあ仲良いです。はい。
久美子 佐久、お茶持ってきて。4つ。
翠 はい。
久美子 ありがとうございます。
翠 冷たいのな。
久美子 はい。

佐久、会議室を出る。

久美子 えっと、話つてのは？
久美子 田村屋さんの件です。
久美子 え？
久美子 明日のまるごとサーチでハーフ肉まん特集していただ
久美子 るはずだったと思うんですが、
久美子 ちよいちよいちよいちよちよちよ。
久美子 はい。
久美子 (翠に)それはもう決定だって伝えたよね？
久美子 伺ってます。
久美子 言っつてないの？
久美子 もちろん伝えてます。
久美子 え？じゃあなんで？
久美子 今回の特集、田村屋さんすごく喜んでくださって、
久美子 お店にいっぱい卸したんでしょ。聞いたよ。
久美子 ですから内容変更、もう一度考え直していただけないで
久美子 しょうか。

久美子、不機嫌になる。

久美子 確かに尖閣問題も重要なテーマだと思っんですが、一度決めた内容を、
衿川 どうするかは俺の仕事。

険悪な空気。

衿川 え？なんで俺の仕事に口出しすんの？
翠 (慌てて) すいません。そういうつもりじゃないですか。
衿川 じゃあどういうつもりだよ？
翠 明日は無理だって分かっているんで、次のタイミングに検討していただけないかなって。
衿川 だから、今は分かんねえって言ったよね俺。約束なんかできるわけないでしょ。時代は動いてんだからさ。
翠 すいません。分かってます。ですよ。失礼しました。
衿川 なんだよ。同じこと言うために来たの？
翠 お忙しいところホントすいません。失礼しました。
衿川 ホントだよ。
翠 (立ちながら) 今日はもう失礼します。また後日改めてお詫びに伺います。(お辞儀) すいませんでした。
衿川 ・・・翠ちゃん、頑張っているから応援してんよ俺。
翠 ありがとうございます。
衿川 家族だったらさ、もっとお互いコミュニケーションしてよ。ね。
翠 はい。仰ることよく分かります。
久美子 私がお願いしたんです。庄内はもう無理って言ったんです。私がどうしてもってお願いしたんです。
衿川 そちらの事情も分かるし、申し訳ない気持ちもあるけど、でもこっちにも事情があんのね。
久美子 もちろん分かります。
衿川 サーチの数字背負ってんの俺。
久美子 はい。
衿川 今何が求められてるか考え、番組作ってんの。それは申し訳ないけど、肉まんじゃないのよ。
久美子 (立ち上がった) 分かっています。分かった上でお願いしているんです。・・・衿川さんのお力で何とかならないでしょうか。
衿川 俺が今言ったの聞いてた？

佐久、お茶を持って入ってくる。

久美子 お願います。明日じゃなくてもいいんです。せめて一週間後、一週間後にオンエアしていただけないでしょうか。

衿川 しつこいなあんた。

久美子 私たちみたいな小さな会社はひとつひとつが命がけなんです。今回の話潰すわけにいかないんです。お願いします。検討してもらえないでしょうか。

衿川 ・ ・ ・

久美子 衿川さんだけが頼りなんです。お願いします。検討してください。

しばし沈黙。

衿川 (腕時計を見て) この後、空いてる？

久美子 え？

衿川 空いてるでしょ。

久美子 はい。もちろん。

衿川 お酒飲める？

久美子 飲めます。

衿川 じゃあ付き合ってよ。

久美子 え？

衿川 俺を楽しませてくれたら、考えてやってもいいよ。

翠 !

久美子 ホントですか？

衿川 ただし、オンエアは約束できない。

久美子 構いません。

衿川 (立ち上がりながら) そういう必死な感じ、嫌いじゃないよ。

久美子 ありがとうございます。

衿川、去りながら、

衿川 (佐久に) お前らも見習え。

佐久 はい。

衿川、去る。

久美子 (翠に) 行ってくる。

翠 はい。

久美子、去る。

翠 なんかすいません。
翠 なんか？
翠 なんか・・・無理強いしてるみたいで。
佐久 それが仕事じゃないですか？
翠 そうですね。
佐久 時間、大丈夫ですか？
翠 ええまあ少しなら。
佐久 (お茶を置きながら) せっかくなんで。
翠 すいません。

佐久、椅子に座り、続いて翠も。

佐久 大変ですね。PRの仕事。
翠 大変じゃない仕事なんてないですから。
佐久 でもどっちかって言うと、大変な方じゃないですか？
翠 そうですかね？
佐久 露出のためには何でもするでしょ。
翠 何でもって。
佐久 何でもですよ。
翠 するわけないでしょ。
佐久 そうですか？
翠 売れない芸人じゃあるまいし。
佐久 (笑) そうですね。
翠 何でもはしません。
佐久 そうですか？
翠 企画がすべてだと思ってます。
佐久 ああまあそうですね。
翠 クライアントとメディアを結び付ける企画。私たちPR
佐久 会社にしかできない、やりがいのある仕事です。
翠 でも露出できなかつたらクライアントからお金もらえな
翠 いんでしょ？
翠 ・・・多少は、もらえるときもあります。
翠 ・・・もらえないときもある。
佐久 だったら露出のために何でもしませんか？
翠 どういう意味ですか？
佐久 しませんかね？

翠 幹事、私やりますよ。
佐久 あー……。でもー……。

上手手前に古元が登場。携帯で発信。
佐久の携帯が鳴る。

佐久 (画面をチラリ) すいません(電話) はい。
古元 古元です。
佐久 ああはい。
古元 今、大丈夫ですか？
佐久 いや今打ち合わせ中です。
古元 じゃあ手短に。
佐久 ああ、はい。
古元 例のさくらカフェなんですけど。
佐久 はい。
古元 予定通り、勝ちました。
佐久 それはおめでとうございます。
古元 まるごとサーチ、仕込んでいたただけるんですよ？
佐久 (翠をチラリ) 一週間後のトレンドコーナーで流しますよ。
古元 ありがとうございます。それ確認したかっただけなんです。
佐久 ああちよっと。
古元 はい？
佐久 ってことは例の約束も？
古元 当然。ソーシャルワークスに佐久さんの口座番号、伝えておきました。
佐久 ありがとうございます。
古元 それじゃ。
佐久 はい(切る)。

古元、笑顔になり去る。

佐久 失礼しました。
翠 いーえ。
佐久 えっと、何の話でしたっけ？
翠 みんなでご飯食べましょうって。
佐久 ああそうだそれぞれ。いいですねえ。行きましょう。ぜひみんなです。
翠 良かった。じゃあ私、幹事やりますね。

佐久　　お願いします。
翠　　はい。あこの後、明華さんと約束あるんで失礼します。
佐久　　御馳走様でした。
ああいえいえ。

翠、いそいそと会議室を出る。
佐久、お茶を片付け、会議室を出る。

五【クインテットPR】

翠が欠伸しながら入ってくる。続いて江渡。
お早うございますとかなんとか言いながら。

江渡　　昨日、電話ありがとね。
翠　　え？
江渡　　すっごい助かった。
江渡　　社長に連絡しろって言われただけです。
翠　　ああそうだよね。
江渡　　昨日遅かったんですか？
翠　　わかる？
江渡　　飲み会ですか？
翠　　プライベートだけどね。
江渡　　ああなるほど。彼氏？
翠　　うんまあそんな感じ？
江渡　　羨ましいです。
翠　　ワインがめっちゃ美味しくてさ。飲み過ぎちゃった。
江渡　　へえ。翠さんもワイン好きなんですか？
翠　　知らなかった？
江渡　　社長も好きですよね？ワイン。
翠　　（一瞬間）え？あそうなんだ。へえ。
江渡　　僕も好きなんで、今度3人で行きませんか？
翠　　いいよ。

古元も疲れた顔で登場。
お早うとか何とか言いながら。

江渡　　あれから行ったんですか？
古元　　ああうん。知り合いとね。銀座。
江渡　　また銀座ですか？

古元　またってなんだよ。会社の金じゃないんだからいいだろうよ。

江渡　いいなあって思っただけです。

翠　古元さんのやり方、ちょっと古いかもしれませぬね。

古元　俺の？いきなりなに言ってるんだよ？

翠　飲んで繋いで裏取引って。もうそういうのやめませんか？

江渡　それ誰から聞いたんですか？

翠　昨日社長から。(古元に) さくらカフェ、負けたんですよね？

古元　ま、そういうことになるね。

翠　接待で作る人間関係なんて、所詮そんなもんなんですよ。

古元　所詮？そんなことないだろ。

翠　今の時代、PRこそ最大のソリューションだと思うんです。

古元　ソリューションね。

翠　マーケティング課題をPRで解決する。さくらカフェが

古元　求めたのはそういうことだったんじゃないですか？

古元　否定はしないよ。

翠　企画が良ければ、勝てたはずなんです。

古元　でも選ぶのは人間だからさ、企画の善し悪しだけで決ま

るわけじゃないから。

江渡　僕ら、最善尽くしたつもりなんですけどね。

翠　じゃあなんで負けたんだらうね。

富野が会議室に入ってくる。

それぞれお早うとか言いながら。

富野　小峯は？

江渡　まだ来てないですね。

富野　連絡は？

一　(江渡に) 昨日伝えたんだよな？

富野　はい。遅れないようにって言いました。そのときはなに

も言っただけじゃなかったです。

翠　昨日、衿川さんと飲みに行ったみたいなんで、そのせい

かもしれないですね。

富野　おいおいふざけんなよ。それはそれ。これはこれだろ。

翠　それはもちろん久美さんも分かっていると今。

富野　だったらなんで来てないんだよ？今。

古元
江渡
富野

お酒飲めないのに無理したのかもな。
きつとそうですよ。
おいちよつと待てよ。・・・それでいいのか？そういうこと
とでいいのかよ？・・・今日の朝会遅れんなって伝えた
のは、最近弛んでるって思ったからだ。小峯が遅刻して
んのをなんとも思っていない。そういうことでもいいのかっ
てことだよ。・・・7ヶ月前を思い出してくれよ。クイン
テットPRを立ち上げて、みんなで頑張ろうって。そう
言ったよな？（翠に）リカバリしヨットが遅い、（古
元に）クライアントに簡単に裏切られる、（江渡に）朝
会に遅刻する。・・・どうなってるんだ？一体。

しばし沈黙。

富野

それでもまだ、一生懸命やってくればいいよ。一生懸命や
ってれば、いつか結果は付いてくると俺は信じてるか
ら。・・・俺はみんなと一緒に作ったこの会社を大きくし
たい。それだけだ。・・・言ったよな？社員百人以上、売
上百億以上の会社にしよって。するって。みんなと一
緒にその夢を叶えたい。それだけなんだよ。・・・そう思
ってるのは俺だけか？
私は一生懸命やってます。社長と想いは一緒のつもりで
す。
僕もそうです。7ヶ月前と気持ちに変化はありません。
ホントにそうか？
はい。
クインテットPRを大きくしたいって思っているか？
はい。

古元以外、微笑。

富野

OK。ならもう一度初心に戻って、気引き締めて仕事を
しよう。な？
はい。
だったらお願いなんですけど。
何ですか？
給料上げてもらえませんか？

富野

・
・
・

古元 頑張りますよそりゃ。一生懸命。会社のために。頑張り
ますけど、ボラントイアやってるつもりないんで、それ
なりのお金もらわないと。

しばし沈黙。

古元 あれ？俺、変なこと言ってます？

江渡 変じゃないですけど。

古元 むしろ当たり前のこと、言ってるよね。

江渡 まあそうですね。

古元 (富野に) 江渡もそう思ってるみたいですよ。

江渡 なに言ってるんですか。やめてください。

古元 え？違うの？

江渡 ・ ・ ・ 違うじゃないでしょ。だってこの会社の給料、下がったじゃ

古元 ん。どういうわけか ・ ・ ・ 翠ちゃんはどう？

翠古元 私 ・ ・ ・ 企画ができれば満足？

古元 お金は二の次？まさかね。

富野 給料に不満があるなら稼いでください。競合に勝ってく
ださいよ。

古元 だから俺は、稼ぐために、原資が必要だと言ってるんで
す。

富野 俺もそう思ってた。でもこの半年、結果出してない
じゃないですか。競合に負け続け。一体いくら稼いだん

古元 ですか？古元さんは？

富野 確かに全然勝ってない。それは申し訳ないと思ってた。

富野 過去形ですか。

古元 だからって給料下げられたら、モチベーションも下がる
よね。

富野 それは俺だって苦渋の決断をしました。できればそんな
ことはしたくなかった。

古元 でもした。

富野 言いましたよね。稼いでくれたら、また上げるって。む
しろこの悔しさをバネに頑張っ

古元 逆ですよ。

富野 逆？

古元 バネになりません。

しばし沈黙。

翠 私はバネになりました。頑張ろうって思いました。
江渡 僕もそうです。だって会社あつての給料じゃないです

翠 か。

江渡 そうよね。

翠 業績悪いの、なんとなく感じてたし。

江渡 この人（富野）分かりやすいから。

（笑）

翠 第一に会社を存続させること、私たちのお給料はその上で、

古元 本気かよ？給料下げられて頑張ろうって、本気でそう思

江渡 ったんかよ？

古元 いけませんか？

江渡 給料下げられて頑張ろうって、それが本当にお前らの本

古元 心かよ？

翠 本心です。

古元 おかしいよお前ら。なにそれ？

江渡 だって僕らこの会社大きくしようって誓ったじゃないす

古元 か。百人以上の社員、百億以上の売上。そうですよね？

江渡 ・ ・ ・

江渡 そのためには我慢しなきゃいけないこともあるんじゃないかな
いですかね。

しばし沈黙。

富野

申し訳ない。さっきも言ったけど、人件費を削ることは俺の本意じゃない。会社を残すための緊急避難だと思つて欲しい。業績が上向けば必ず元の給料、いやそれ以上の給料を支払うつもりです。約束します。 ・ ・ ・そのためには今、この逆境をみんなで共有して、
古元 すいません。

古元、ポケットから辞表。

古元 付いていきません。

しばし沈黙。

富野

いつから？

古元 え？
富野 こんなもん用意してるくらいだ。昨日今日じゃないだ
ろ？

古元 ああまあそうですね。
富野 いつから考えてた？
古元 昨日、俺に聞きましたよね？なんで前の会社辞めたのか
って。

富野 ああ。
古元 これ（お金）ですよ。先の見えてる会社の給料なん
てたかがしれてる。だったら転職もありじゃないかつ
て、そう思ったんですよ。正直、俺にとってこの会
社がどうなるうと関係ないんです。社員百人？売上百
億？どうでもいい。ぶっちゃけ興味ない。でも会社
が大きくなれば自分の給料も上がるだろう、単純にそう
思ったからなにも言わなかっただけですよ。
富野 だからいつから辞めようと思っただけですか？
古元 1ヶ月前ですかね？

富野 9月？
古元 そうですね。
富野 さくらカフェのプレゼン、わざと負けたんですか？
江渡 え？
富野 そうなりませんか？だってプレゼンは一週間前だったんで
すから。そんなときはもう辞めようと思っただけですよ

江渡 ね？
富野 そんなはずないですよ。僕ら徹夜で企画書書いて、ふた
りであーでもないこーでもないって。負けるつもりなら
あそこまでしません。
富野 企画書は、だろ。
江渡 え？
富野 吉田部長と銀座で、何を握ってきたんですか？

しばし沈黙。

古元 それは誤解だ。わざと負ける？そんなことするわけな
い。
富野 信じていいですか？
古元 ああもちろん。
富野 余計なこと言いましたね。すいません疑って。
古元 ああまあいいよ。

そこに久美子が会議室に入ってくる。
髪の毛も乱れ、慌てて来た様子。
富野、辞表を隠す。

久美子 遅れてすいません。
富野 おい、なんで遅れた？
久美子 すいません。遅れるつもりはなかったんですが。
富野 今日は大事な話をしたかった。だから遅れんかって言っ
たんだ。
久美子 はい。
富野 お前も会社に不満があるのか？
久美子 え？
富野 あるならあるで言ってくれよ。そうやってやる気のない
態度される方が腹立つんだよ俺は。

しばし沈黙。

久美子 やる気はあります。
富野 そう見えないんだよ。
久美子 だから・・・
富野 なんだよ？
久美子 ハーフ肉まんの露出、衿川さんの約束を、取り付けてき
ました。
富野・翠 え？
富野 おいそれ本当か？
久美子 はい。本当です。
富野 本当に本当に本当にホントなんだな？
久美子 はい。
富野 もっと詳しい話を聞かせてくれ。
久美子 はい。

と言って、久美子、椅子に座る。

久美子 昨日、衿川さんとふたりで食事に行きました。そこで今
回の件について、徹底的に話し合っただけです。田村屋さ
んは東テレにとっても大事なスポンサーなんです。いい関係
を続けた方が東テレにとってもメリットになるはずだと
説得しました。
富野 うん。それで？

久美子、手帳をパラパラめくりながら、

久美子 そしたら衿川さんから、田村屋さんの中国工場をロケで
きないかって言われたんです。

富野 中国工場？

久美子 はい。ハーフ肉まん工場です。そこで働く人の画を撮
って、食文化と日中問題を絡めて特集にするのはどうか
って逆提案を受けたんです。

富野 食文化と日中問題？・・・尖閣問題にも繋がるし、田村

屋さんにとってもいい話かもしれない。

久美子 私もいい案だと思って思ったんで、ぜひそれでお願いします
って言いました。

富野 うん。

久美子 ロケ費もこちらで持ちますから、でもその代わり、一週

間以内に流してもらえないかってお願いしたんです。

富野 うんうんうん。

久美子 一週間後のまるごとサーチのトレンドコーナーで流して

くれるそうです。

古元 ！

富野 (ガッツポーズ)よし！よくやった。

久美子 ありがとうございます。

富野 よく頑張った。

久美子 はい。

江渡 おめでとうございます。

久美子 ありがとうございます。

翠はなぜか不機嫌。

古元 久美ちゃん、それ昨日の話？

久美子 はい。昨日の夜です。

古元 サーチのトレンドコーナーって言ったの？

久美子 はい。

古元 来週なの？

久美子 そう言ってくれました。

古元 衿川Pが？

久美子 え？どうしたんですか？

富野 (久美子に)よくやった・・・古元さん、こういうこと

ですよ。こういうことを積み重ねていけば、必ず給料は

元に戻します。

古元 ・・・

富野 だから考え直してもらえませんか？
久美子 何があったの？

富野、隠してた辞表を古元に返そうとする。

久美子 え？

古元 （久美子に）余計なことしやがって。

久美子 ・ ・ ・

古元 申し訳ないが気持ちに変わりはない。短い間でしたが、

（お辞儀）お世話になりました。みんなも頑張ってた。夢
叶うといいな。それじゃ。

と言って去っていく。

しばし沈黙。

久美子 余計なこと？

富野 古元さんのやつかみだよ。気にすんな。

と言って、富野、久美子の肩を触る。

翠 触らないで。

富野 え？

翠 その人に触らないで。

富野 なんだよ。どうしたんだよ？

翠 小峯さん。

久美子 え？なに怖い。

翠 どうやって仕事もらってきたの？

久美子 は？だからそれは今、

翠 どうやって衿川さんを手なずけてきたの？

久美子 手なずけて？

富野 どうしたんだよ翠？

江渡 翠さん？

と言って翠に近付く。

翠、持ってた手帳か何かで江渡を払う。

富野 おい翠。なにやってんだ？

私、PRの仕事に誇りを持ってます。社長が言うように、これからは戦略PRが重要だって私もそう思ってるから。クライアントの企業や商品を、どうすれば取り上

翠 触らないで。(富野、固まる) 触らないで気持ち悪い・・・ああなんかイライラする。
富野 (翠に) 落ち着けよ。

と言っ、翠に近付く。

翠 (後ずさりして) ごめんなさい。今日はもう失礼します。気分が悪いから。

富野 (生返事)。
失礼します。

翠、去る。

富野、この状況に逡巡するが、やがて翠を追いかける。

残された2人、呆然としている。

久美子 江渡くん。

江渡 はい？

久美子 私寝てないよ。

江渡 え？

久美子 信じてもらえないかもしれないけど。

江渡 ・・・信じますよ。

久美子 ありがとう。

江渡 でも・・・真実は違うんです。

久美子 え？

江渡 真実は翠さんの中にあるんです。

久美子 ？

江渡 例え寝てなくても、翠さんが信じなければ、寝たことになるんですよ。

久美子 ・・・そうね。

江渡 そして真実かどうかはともかく、あの2人が特別な関係だっ、

久美子 !

江渡 僕の中で真実になりました・・・お互い、この会社にいれないかもですね。

うなだれる2人。

暗転。

六【東京テレビ】

明華と佐久が廊下にいる。
佐久、明華を会議室に押し込む。
そしてドアを閉める。

明華　なんですか？
佐久　まあちよつと話があつてさ。
明華　もうすぐ衿川さん来ますよ。
佐久　分かつてる。だから。
明華　なんですか？

佐久、企画書を明華に見せる。

明華　さくらカフェ？
佐久　知ってる？
明華　最近できたコーヒーチェーンですよ？渋谷のお店に行
佐久　つたことあります。
明華　あそう。
佐久　これがどうしたんですか？
明華　今日の企画会議で、これ推して欲しいんだよ。
佐久　え？
明華　来週のトレンドコーナー。面白いと思わない？
佐久　へえ。あでも私もネタを持ってきました。

と言って、企画書を出そうとする。

佐久　それは、今度にしよう。
明華　へ？
佐久　今回はこの案だけを推そう。
明華　なんにも出さなかつたら、私が怒られるじゃないです
か。
佐久　そんなときは俺がちゃんと守るから。な？頼む。
明華　えー！ー？これをふたりで？
佐久　そ。
明華　なんでですか？
佐久　うん。ソーシャルワークスから提案もらってさ、俺はい
い企画だっと思ってたんだよね。
明華　でも一案だけって。衿川さん怒りますよ。

ふたりしかいないの？
はい。
大事な企画会議に？
すいません。
（舌打ち）・・・ま、しょうがねえか。
よし、じゃあやろう。一時間一本勝負。
はい。
えっと、じゃあまず来週のトレンドコーナー。
はい。企画持ってきました。

と言つて、企画書を出そうとする。

ああいよいよいよいよいよいよいよいよ。それ、次の次のネタにして。
え？
例の田村屋のハーフ肉まん、あれやるから。
ええ？
昨日あれからあの子と飲んだろ。まあ色々提案もらつてさ、イケるって企画があんだよ。
あれは中国産で、右翼から抗議くるかもしれないって。
そうだけどな。まあそうだけど、ただ中国生まれの肉まんが日本人の胃袋を満たしてるってなれば、逆に日中友好の架け橋になんだって、そういう風には言えないか？ 言えんだろ。な？ そういう特集にすればクリアできんだろ。
（明華に）お前は どう思う？
どうですかね。強引すぎないですかね。
もつとはつきり言えよ。
え？ あはい。
（頭が）堅いよ堅い。もつと柔らかくしろ。食文化と社会問題掛け合わせたら、どうなるかって、想像力足んないよお前ら。テレビマンだろがよー。
でもそこまで視聴者に伝わりますかね？
あ？
IQ高いつていうか。F3が理解してくれませんか？ 食文化かける社会問題。
バカ。理解してくれませんかじゃねえよ。理解できるよ
うに作るんだろうがよー俺たちがさ。

明華 もちろんそうですけど、おばちゃんはBCGなんですよ
 明華 そうだよ。
 明華 お言葉ですが、BでもCでもGでもない気がするんです
 明華 けど。
 明華 だからお前はまだまだ半人前だったんだよ。いいか。
 明華 食文化って視点で括ればCにもなんだよ。中国で昔から
 明華 愛されてきた肉まんが、大正時代、海を渡って日本にや
 明華 ってきた。その時のレシピ再現すればCookingにな
 明華 んだらうがよー。
 明華 でもそれは肉まんそのものであって、田村屋のハーフ肉
 明華 まんじやないですよね？
 明華 分かってんじゃない。
 明華 は、はい。
 明華 そこで現代日本の話にする。今、おばちゃんの間で流行
 明華 っている肉まんがある。カロリーハーフの肉まん、つま
 明華 り田村屋のハーフ肉まんってわけだ。カロリーを気にす
 明華 るおばちゃんに大流行ってすれば、Beautyにاندらう
 明華 がよー。
 明華 そういうことですか。
 明華 中国発祥の歴史から現代日本をつなぐ食文化として肉ま
 明華 んを紹介する。で、今流行ってるのが、田村屋のハーフ
 明華 肉まんって流れにすれば、トレンドコーナーで取り上げ
 明華 る意味もあんだらうがよー。
 明華 ありますね。
 明華 ちよつと待ってください。
 明華 なんだよ？
 明華 今、中国関係のネタ使うのはリスクすぎます。
 明華 ・ ・ ・
 明華 私は正直反対です。
 明華 は？
 明華 中国の情勢が落ち着いてからでも、遅くはないと思いま
 明華 す。(明華に) お前はどう思う？
 明華 はい。私も佐久さんに同感です。
 明華 そうだよな？
 明華 はい。やっぱり今はリスクだと思います。
 明華 何か問題があっただけからでは遅いんです。来週は他のネタ
 明華 にすべきですよ。
 明華 他ってなんだよ？

佐久 はい。ふたりに企画を考えてきました。自信がありません。見てください。
明華 お願いします。

佐久、企画書を衿川に差し出す。
それを受け取りパラパラと見る。

衿川 これをなんで今やんの？
佐久 はい。今、F3にとつてさくらカフェがひとつのコミュニ

ニティスペースになってるんです。それはさくらカフェが女性専用スペースを設けたことで、今までは自宅に招いてしていた奥様同士のお茶会をここでするようになって

たつてことだと思っんです。
衿川 そんなことあこれ（企画書）見りゃわかるよ。

佐久 ええ。ですから、
衿川 俺が聞いてんのは、なんでこれを、今、やんのかってこ

と。
佐久 え？

衿川 だから、このネタを今やる必然性はなんなのかって言っ
佐久 てんの。

衿川 俺は言ったよね。日中問題がこじれてる今だからこそ、
ハーフ肉まん取り上げる意味があるって。そう言う意味
で、これはなんなの？

佐久、明華を見る。

明華 女子会が主婦にも広がってきたってことじゃないです
か。

衿川 ・ ・ ・ ほお。

明華 女子会って学生やOLさんが中心じゃないですか。主婦
衿川 もやりたいんですよ女子会。

明華 ・ ・ ・
衿川 でも夜は出れないじゃないですか。家族がいるから。だ
から昼間、さくらカフェで女子会するんですよ主婦は。
衿川 なるほど。

明華、ファイルから自分の企画書を取り出す。
佐久、慌てるが何もできない。

明華

これ、私の企画書なんです。

　　衿川、企画書をパラパラめくる。

明華

衿川さん、前に言いました。F3はスマホに興味ないって。それで私、調べたんです。ホントかなーって。そんなことないんじゃないかなーって。確かに他の世代に比べると低いです。低いですが、でも確実に増えているんです。興味はあるんですよ。彼女たちもスマホに。

衿川

これお前が自分で調べたのか？

明華

はい。店頭に行ってヒアリングもしました。最近はい、60代の女性もスマホを買っていくんだそうです。50

衿川

だから？

明華

SNSですよ。インスタやLINEで繋がるとその場で女子会が成立するんです。今から会わない？みたいな。

衿川

うん。

明華

だからさくらカフェなんです。いきなり呼べないじゃないですか。自宅には。

衿川

面白い仮説だ。

佐久

この仮説が正しければ、今、特集する意味、あるんじゃないですか。

衿川

ありますよね？

佐久

確かに。

明華

はい。再来週はこれでいこう。

2人

え？ 来週は肉まんで行く。これは決定。

衿川

だって今、これ面白いって。

佐久

いいか。このネタは再来週でもいいけるけど、肉まんは再来週だと腐るんだよ。日中問題が旬すぎてさ。だから来

佐久

週のトレンドコーナーは田村屋のハーフ肉まん。何度も言うがこれは決定だ。いいな？

衿川

納得できません。そんなリスキーなネタ。考え直してください。

衿川

責任とんのはおめえじゃねえだろうがよー。俺だよ俺。いいか。その俺が肉まんで行くつうんだからいくんだよ。

しばし沈黙。

佐久 衿川さん、もしかして・・・あの、ちよつと言いくい
んですが。
衿川 いいよ。なんだよ？
佐久 昨日の女と、その、なんていうか。
衿川 したよ。うん。
佐久 ・ ・ ・
衿川 男と女が朝まで一緒にいたら、そうなっちゃうよね。
明華 え？昨日の？あの？
明華 うん。久美ちゃん。真面目な、いい子だよあの子。
佐久 あーそうだったんですかー。
明華 やっぱり。
佐久 まあそれはそれ。これはこれだけだな。
明華 え？
衿川 言っとくけど、それで来週肉まんにするってことじゃね
えかな。
佐久 違うんですか？
佐久 違うよお前。そんなことで番組内容変えたら、プロじゃ
ねえだろうがよー。
佐久 はあ。
佐久 ・ ・ ・お前そんなこと勘ぐったのか？
衿川 俺にとってサーチはな、初めてプロデューサー任された
大事な番組なわけ。分身だよ俺の。
明華 あの、その話もう何度も聞いてます。
明華 何度でも聞くんだよ。うるせえな。
明華 すいません。
明華 その俺の分身でもあるサーチをな、俺が、自分で、汚す
わきゃねえだろう。
明華 そうですね。
明華 たかが女抱いたくらいでさ・・・俺は、あくまで企画が
おもしろえって思ったから採用しただけだ。今までもこ
れからも企画がすべてだ。分かったな？
明華 はい。

しばし沈黙。

衿川 佐久。
佐久 (力なく) はい。

お前はどうかんだ？
佐久 なんだ？
佐久 これ（企画書）に、裏はねえよな？
明華 裏があるから、しつこく推すわけじゃねえよな？
え？

衿川、佐久をジッと睨む。

佐久 もちろんですよ。なに言ってるんですか。企画がいいと思っただけから推しただけです。
衿川 だよな。
佐久 はい。

衿川、明華フリーズ。
佐久にサスが入り、携帯が鳴る。
上手前に電話しながら現れる古元。

佐久 （電話）はい。
古元 さっき変なこと聞いたんですが、来週のサーチのトレンドコーナー、
佐久 田村屋のハーフ肉まんを特集することになりました。
古元 ・ ・ ・
佐久 さくらカフェは再来週以降の露出になります。
古元 話が違いますか。
佐久 すいません。力になれなくて。
古元 ちよつとちよつと。え？お金用意すれば取り上げてくれるって。
佐久 すいません。だから無理でした。
古元 約束違うじゃないすか。
佐久 そう言われても。すいませんとしか言いようが。
古元 冗談ですよ？
佐久 ・ ・ ・
古元 なんだよ。金引っ張ってきたんだよこっちは。
佐久 だからお金はお返しします。
古元 そういうこと言ってるんじゃない。約束したよね？ごり押しするって。
佐久 だから無理でした。お金はお返しします。しばらく電話しないてくださいね。足つくのも嫌なんで。

古元 おいおいおいおい。それは困るって。さくらカフェ

佐久 と握ったんだよ俺は。

古元 知ってますよ。

クインテットPR辞めて、ソーシャルワークスに行くんだよ俺は。さくらカフェとの関係、悪くするわけにいかねえんだよ。

佐久 もう切りますね。

古元 お金返せば済むとかそういうことじゃねんだよ。俺の人生掛かってんだよ。

佐久、電話を切る。

古元 ちよっとおい。佐久……(舌打ち) あの野郎。

と言って走り去る。

2人のフリーズ解除。

会議終わりの風景。茫然自失の佐久。

衿川 さっきのお前の仮説、面白かったよ。

明華 え？

衿川 ・・・

明華 なんと言ったんですか？

衿川 なんでもねえよ。

明華 ・・・ありがとうございます。

衿川 (舌打ち) ・・・ドラマやりたいんだって？

明華 え？あまあはい。

明華 いいか。俺たちが作ってんのもドラマだよ。ノンフィクションだけだな。見つけんだよ。ドラマをさ。さっきのお前の話みたいによ。 ・・ ・俺は、ノンフィクションの方が面白いと思うけどな。

衿川 ・・ ・

明華 どうするよ？

衿川 え？

明華 ドラマのPに話通そうっか？

衿川 ええ？

明華 考えとけ。

衿川、去る。

取り残された2人。

明華 すいません佐久さん。力になれなくて。
佐久 いいよ。

2人、会議室を出ながら、

明華 私。
佐久 ん？

明華 ドラマがやりたくありません。

佐久 知ってるよ。今さら何言ってるんだよ。

明華 フィクションじゃなくて、ノンフィクションなんですけど。

2人、奥に消える。

七【クインテットPR】

富野、入ってきて、倒れるように椅子に座る。
そこに江渡が入ってくる。

江渡 仕事しなくていいんすか？
富野 そんな気分じゃない。
江渡 ・・・田村屋に行ってきました。
富野 ご苦労さま。
江渡 サーチに露出できたこと、ホントに喜んでました。
富野 それは良かった。
江渡 本当なら小峯さんが報告すべきなんですけどね。
富野 いないんじゃないだろ。
江渡 翠さんから連絡ありました？
富野 いや。
江渡 まだ実家なんすかね？
富野 さあ。

しばし沈黙。

富野 お前も辞めていいぞ。
江渡 ・・・僕が辞めたらどうするんですか？
富野 とりあえず会社は畳むな。
江渡 じゃあ辞めなかつたら？
富野 どっちにしる潰れんだから同じだよ。

しばし沈黙。

江渡 残念です。

富野 俺もだよ。

江渡 富野さんがそんなんで。

富野 ・ ・ ・

江渡 僕、この会社が好きで、この会社を大きくするために頑

張ろうって心の底から思っていました。だから企画も寝な

いで頑張ったし、給料下げられても頑張ろうってホント

に思っていました。 ・ ・ ・ 営業初日の日、富野さんはこう言

いましたよね？

江渡なりに再現する富野のあの日。

江渡 いやいよ今日からこの会社の歴史が始まる。クインテッ

トPRは俺の会社じゃない。俺たちの会社だ。名目上俺

が代表ってなってるけど、それはあくまで名目上。実際

はみんなひとりひとりがこの会社の未来を作る立場にあ

る。そのくらいの気概と覚悟を持って、全力で仕事をし

て欲しい。だから思ったことは遠慮せず、何でも言い合

える会社にしよう。みんながいいと思ったアイディアは

どんどん採用する会社にしよう。そういうことを積極的

に言い合える会社にしよう。それがCEOとしての俺の

唯一のお願い。 ・ ・ ・ (笑)

富野 (苦笑) よく覚えてんな。

江渡 だから僕は、思ったことはなんでも、それこそ遠慮せ

ず、富野さんに言ってきました。

富野 ありがとうございます。お前にはホント感謝してる。

江渡 でも実は俺、富野さんに言ってないことが、ひとつだけ

あるんです。

富野 なんだよ？

見つめあったまま長い長い間。

その間、言うか言うまいか悩む江渡。

江渡 僕がこの会社に来たのは。 ・ ・ ・

やがて決意し、静かに口を開く。

江渡 もう一度やり直しませんか？

富野
江渡

え？

クインテットPR。

江渡、出て行く。

下を向いたまま固まっている富野。
やがて力強く顔を上げる。

暗転。
幕。